

事例 21 岩手県滝沢村

人 口	51,512 人
高齢者数	5,835 人
高齢化率	11.33%
担当部署	基幹型在宅介護支援センター高齢者保健担当

1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	岩手県のほぼ中央部、奥羽山脈と北上山地との間を流れる北上川中流域北端、岩手山の東南山麓に広がる。県都盛岡市の北西に隣接し、新興住宅地が増加している。									
	都市近郊農村地帯、内陸性気候。									
	若年層の転入者が多く、共働き・核家族化が進み、既存の住民と都市住民の感覚を持つ住民が混在し、価値観の多様化、コミュニティー意識の希薄な傾向がある。									
	平成6年に策定された第4次滝沢村総合計画基本計画に基づき、現在福祉・教育・都市基盤整備・頭脳立地構想基盤整備事業等に取り組んでいる。平成9年度には老人居宅生活支援事業の在宅福祉事業で厚生大臣表彰を受けている。平成10年度には「行政情報化の推進」で自治大臣表彰を受け、地方分権への対応も評価されている。									
本村は、地方分権時代の行政スタイルへの転換を図るため、今までにないスピードで行政システムの改革や事務の革新を進めている。(行政情報公開条例制度化、庁内LANの設置、ファイリングシステムの施行、組織のフラット化・フレキシブル化、行政経営品質向上活動の推進、ISO14001.9001認証平成12年度同時取得等)										
人口	51,512人			高齢者数(高齢化率)	5,835人(11.33%)					
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯						
	14,231			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯			その他		
				628	635			2,711		
要介護認定(申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
	—	0	78	219	116	94	81	76	664	
社	指定居宅サービス事業所(か所数)			訪問看護	訪問介護	通所介護				
				(3)	(5)	(4)				
会	指定居宅介護支援事業所(か所数)			9カ所						
資	保健センター 在宅介護支援センター(か所数)			<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センター(特A型) ・基幹型在宅介護支援センター(1カ所) ・地域型在宅介護支援センター(3カ所) 						
				※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。						
源	介護予防事業の拠点となりうる場(か所数)			<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進施設(相の沢温泉お山の湯)(1カ所) ・介護予防拠点施設(北の湯)(1カ所) ・各地区いきいきサロン(5カ所) ・各地区集会所・公民館(23カ所) 						
	(公的施設以外も含む)									

(平成17年12月末現在)

況		
	介護予防事業の担い手 となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区いきいきサロン運営協議会 (5カ所) ・地域型在宅介護支援センター (3カ所) ・自治会 (23地区) ・老人クラブ (23単位会) ・保健推進員 (62人) ・民生委員 (58人)

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図

別添資料参照

※1 職員配置状況や所掌事務等についてもご記入願います。

※2 市町村直轄以外の在宅介護支援センター等についても組織図に書き込んでください。

※3 地域ケア会議等についても組織図に書き込んでください。

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?	<input type="radio"/> 関連(類似)事業があった。 →問2～問4へ <input type="checkbox"/> 関連(類似)事業はなかった →問5へ
(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。 ※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、 県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、 対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <p>◎機能訓練B型事業(通称：いきいきクラブ) 目的：平成12年度より介護保険が施行となりデイサービス(ケア)が介護サービスの一つとなることに伴い介護保険の対象とならない自立の方や虚弱・閉じこもりがちな方を対象に、地域の公民館等に出向いて機能訓練B型(地域参加型)を実施し、寝たきりや痴呆の発生を予防し、支援を必要とする高齢者の早期発見などの予防活動を行う。(◎介護保険施行に先立ち平成11年度にモデル的に実施した) 実施内容：①ヘルスチェック ②手工芸 ③学習的なもの(介護保険・健康管理等)</p>

	④レクリエーション ⑤軽体操 等
	実施回数：月1回（28回開催）
	実施場所：3カ所
	担当部署：旧福祉課高齢者保健担当
	参加者数：実人員111人、延人員353人
(問3) 上記事業の効果測定（評価） を行いましたか？	<input checked="" type="radio"/> 行った <input type="radio"/> 行っていない （具体的方法） 参加者へのアンケートにより、目標に沿った主観的評価 の効果判定を経年的に行っている。

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。 ・中心となった部局はどこか？ ・何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？	平成11年度の老人保健福祉計画の見直しと介護保険事業計画策定（一体として策定）にあたり、住民参加型の計画策定とし、ニーズ把握から計画策定の各過程において一般住民の方に協働していただいた。 意見聴取については、住民の策定懇談会「いきいきライフを語る会」委員よりのグループインタビュー、説明会や出前講座等（61会場、約2千人参加）で頂いた。 計画は、住民ニーズをもとに目標設定型で策定し、各々の目標に係る評価指標を明らかにし、それに沿った現状評価と今後の方向性を見出し、施策の方向を提示している。目標が明確になり、示された施策の方向により必要となった新事業や拡大事業（又は縮小・廃止事業）が見えてきたため、「介護予防事業」のあり方や具体的推進の方法も容易に企画出来た。 中心となった部局は、旧福祉課（現在は支援センター内）の高齢者保健・福祉担当、及び介護保険担当である。 計画策定や事業実施の上で関連する部署の担当によるワーキンググループ及び村基本計画の部会等との連携体制をとっていた。

<p>(問5)</p> <p>(問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。</p> <p>今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ 	<p>意見聴取については、計画策定時に住民から頂いたニーズを参考に企画に役立てている。また、自治会や老人クラブ、保健推進員、民生委員等の集まる場を利用し、協議頂いている。</p> <p>「いきいきライフを語る会」については、計画の進捗や新規事業等その後の事業について確認して頂く為、継続して頂いている。さらに、学識経験者や団体の長等で構成する「介護保険運営協議会」に諮り、企画立案について確認して頂く体制をとっている。</p> <p>事業の具体的な運営や内容については、地域の対象者やボランティア、協力者より意見を頂き、地域に則した企画・事業推進を心がけている。また、事業実施時に参加者から企画に対するアンケートや意見を頂いている。</p> <p>担当部局は、基幹型在宅介護支援センターであるが、支援センターの機能の他に高齢者保健・福祉担当、高齢者大学や趣味の教室等の生きがい対策まで一貫して提供</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？ 	<p>出来るような体制を平成12年度から整えており、企画立案・実施・評価を体系的に行っている。</p>
<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業」を企画する際、下記の様な検討事項があったと思います。</p> <p>貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・事業対象者の選定方法はどうするか？ ・事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・既存の設備の利用が可能か？ ・新たな設備整備が必要か？ ・どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<p>◎意見聴取については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の策定懇談会「いきいきライフを語る会」委員よりのグループインタビュー。 ・説明会や出前講座等(約2千人参加)でのニーズ聴取。 ・自治会や老人クラブ、保健推進員、民生委員等の集まる機会にニーズ聴取。 ・各種保健福祉事業実施で地域に出向いた際に聴取。 <p>◎事業対象者の選定・従事の人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業については、閉じこもり予防の観点から介護保険対象外の閉じこもりがちな方ということにはなるが、予防的視点から見て介護保険対象外の約9割の方が全て対象と考える。その中で、元気な高齢者が虚弱な方へ介助をしたり、閉じこもりがちな方を誘われたりと、参加者でありボランティアとして支援し、それを生きがいと感じるという相互扶助が見られている。 ・施設設備については、現在の経済情勢により新たな整備は出来るだけ行わず、地域の既存の施設を活用することとし、必要により最低限の改修・整備を行っている。 ・事業予算は、基幹型在宅介護支援センターで確保。

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問1)</p> <p>企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数(週、月)、実施体制(スタッフ、研修)、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携(協力)体制 等</p> <p>《いきいきクラブ》</p> <p>目的・対象：介護保険の対象とならない自立の方や虚弱閉じこもりがちな方を対象に、地域の公民館等に出向いて機能訓練B型(地域参加型)等の介護予防事業を行うことにより寝たきりや痴呆の発生を予防し、支援を必要とする高齢者の早期発見などの予防活動を行う</p> <p>開始時期：平成11年6月より開始</p>

	<p>開催場所：地区公民館・集会所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成11年度— 3カ所 ・平成12年度—16カ所 ・平成13年度—20カ所（12月末現在） <p>実施回数：おおむね月1回</p> <p>実施内容：①機能訓練B型（ヘルスチェック、手工芸、レクリエーション、軽体操、学習的なもの等） ②IADL訓練教室 ③転倒骨折予防教室、生活体力測定 ④高齢者食生活改善事業 等</p> <p>①～④を「いきいきクラブ」の中に組み入れて実施している。</p> <p>《いきいきサロン》</p> <p>目的：既存施設を利用し、近所で集まって楽しく交流し気分転換を図ることにより、高齢になっても自分らしく生活を送られるよう、また、まちかど相談所を開設し在宅で生活する上での各種相談を行うことにより、また支援の必要な方へ早期からの関わりを持つ事により閉じこもりや機能低下を防ぎ、自立を促す事を目的とする。</p>
	<p>開始時期：平成12年度より開始</p>
	<p>開催場所：平成12年度—3カ所（内、健康増進施設1カ所） 平成13年度—7カ所（内、健康増進施設1カ所、介護予防拠点施設1カ所）</p>
	<p>実施回数：週3回～週6回（地区の状況に応じて）</p>
	<p>実施内容：①来所者の交流 ②健康相談（月1～2回） ③まちかど相談所（月1～2回） ④レクリエーション・手工芸等</p> <p>（地区の状況・地区の指導者に応じて）</p>
	<p>※運営は地区自治会（運営委員会）等が行っている。</p>
	<p>◎上記2事業は、老人保健福祉計画の「施策の方向」の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに集まれる場所がある。 ・生きがいを持ちいきいきと暮らせる。 ・集まって楽しく交流・気分転換が出来る。 <p>などで必要性が打ち出されており、住民の意向もあり、現在も拡大傾向にある。</p>
<p>(問2)</p>	

<p>住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長会議、老人クラブ会長会議、民生委員会議、保健推進員会議等での周知。（村の高齢者の現状と事業の目的、具体的推進等について） ・対象地区住民への回覧、対象者への老人クラブ員、保健推進員、民生委員等を通じての日程・内容等記載したリーフレット配布、参加勧奨。 ・地区の協力者となりうる住民に対する周知と協力依頼。

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3)</p> <p>「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数)</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>《いきいきクラブ》</p> <p>平成11年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施会場：3カ所(28回) ・参加人数：実人員111人 延人員353人 <p>平成12年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施会場：16カ所(147回) ・参加人数：実人員574人、 延人員2,314人 <p>平成13年度(12月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施会場：20カ所(140回) ・参加人数：実人員582人 延人員2,330人 <p>《いきいきサロン》</p> <p>平成12年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施会場：3カ所 ・参加人数：延人員1,092人 <p>平成13年度(11月末)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施会場7カ所
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数：延人員2,774人

(問4)

現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？

- ・事業について住民の方々から良好な評価が得られており、また参加者の増加がみられ実施会場の拡大も順調で、さらに新規立ち上げの希望が現在も寄せられていること。
- ・介護予防事業のそれぞれの事業目的に沿って、参加者自身がその身体状況や希望によって選択できる、村としての体制が整備されつつあること。
- ・地域住民のエンパワーメントが介護予防事業において着々と開花されてきたこと。

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5)</p> <p>うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・基幹型在宅介護支援センターが本来の業務のみでなく高齢者保健福祉・生きがい対策まで一環してサービス提供出来る体制をとっていた。・老人保健福祉計画の策定の段階から住民と協働し、住民の思いに沿った計画の内容とし、事業推進してきたことと、住民の計画策定懇談会をその後の計画の進行管理でも、引き続きご協力頂いていること。・地域型在宅介護支援センターや地域の自治会・ボランティア等のエンパワーメント醸成を念頭においた地域づくりへの支援。
<p>(問6)</p> <p>今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・機能回復・維持にとどまらず、もっと積極的な機能強化に関する事業が準備されていない。これが実施されると、介護予防に関する体系的事業推進の体制が完成されると思われる。

<p>(問7)</p> <p>現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度より「(仮称)筋力強化支援事業」を立ち上げる予定であり、関係機関等と協議中である。

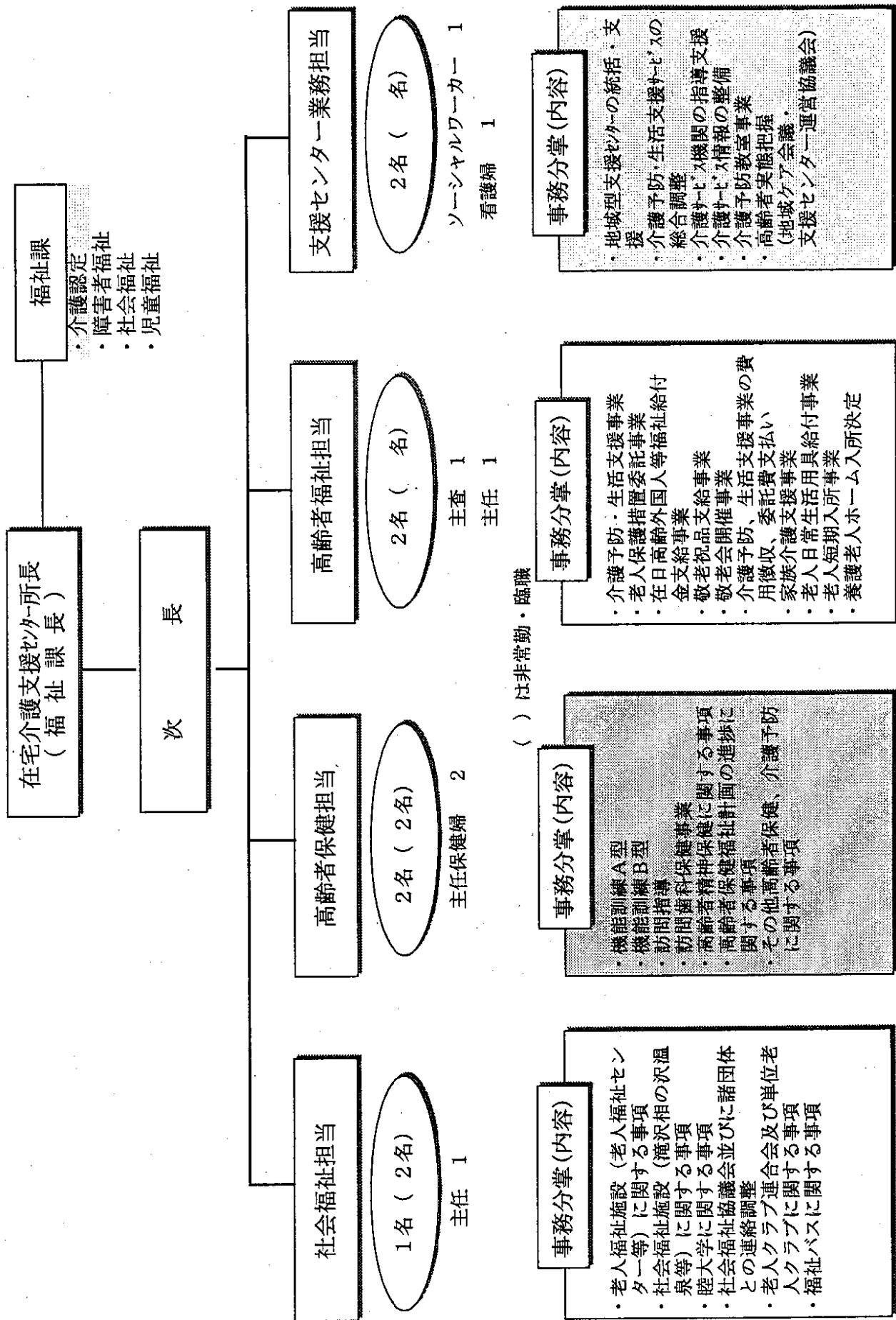
6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する(直轄・委託)保健・福祉事業に対する評価について伺います。

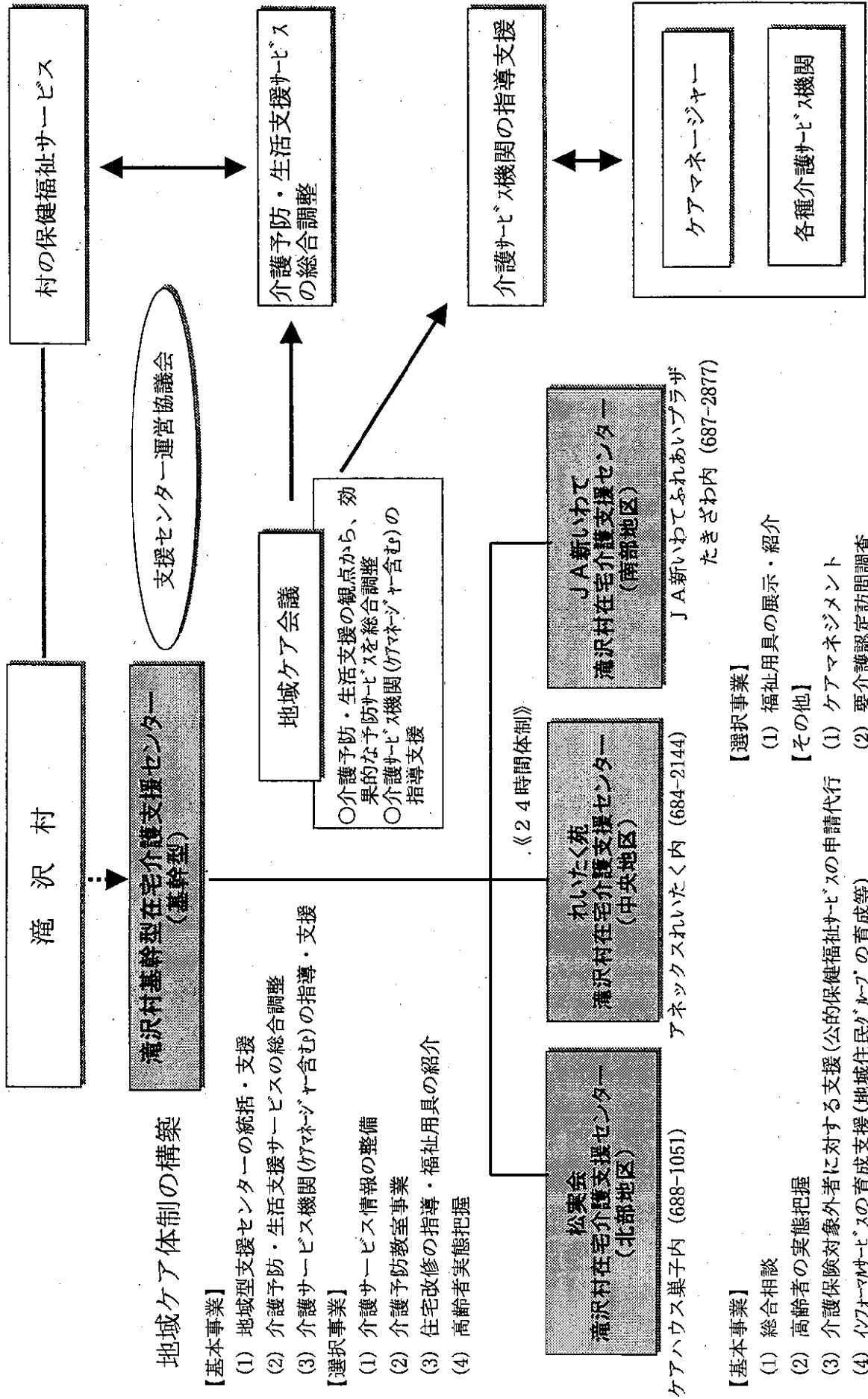
質問項目	回答欄
<p>(問1)</p> <p>「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか?</p>	<p>(<input type="radio"/>) 行っている。→②へ</p> <p>(<input type="radio"/>) 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきクラブについては、主観的評価について参加者にアンケートを毎年実施している。また、生活体力の測定を平成12年度に行っており、経年的に同測定を行い評価の指標として活用する予定である。 ・老人保健福祉計画の具体的な目標にかかる評価指標を計画策定時に示し、それに沿った現状評価をその時点で行っているため、経年的にその指標に沿った評価をしていく予定である。

<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業の費用対効果を短期間で期待することは現時点では困難であると思われるが、長期のスパンで老人医療費や介護保険料等の改善で評価することも必要であるとする。短期のスパンにおいては、閉じこもりや病院受診状況・運動習慣などの行動変容で推し量ることは可能と思われる。
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健福祉計画策定時に具体的目標の条件について評価指標（内容に応じ定量的・定性的）を其々作成している（別添の例）。その目的となっている事項が、改善されているかどうかは、単に事業評価では効果判断が困難であり、目的に沿ったの広い視点での評価が大切と考えている。

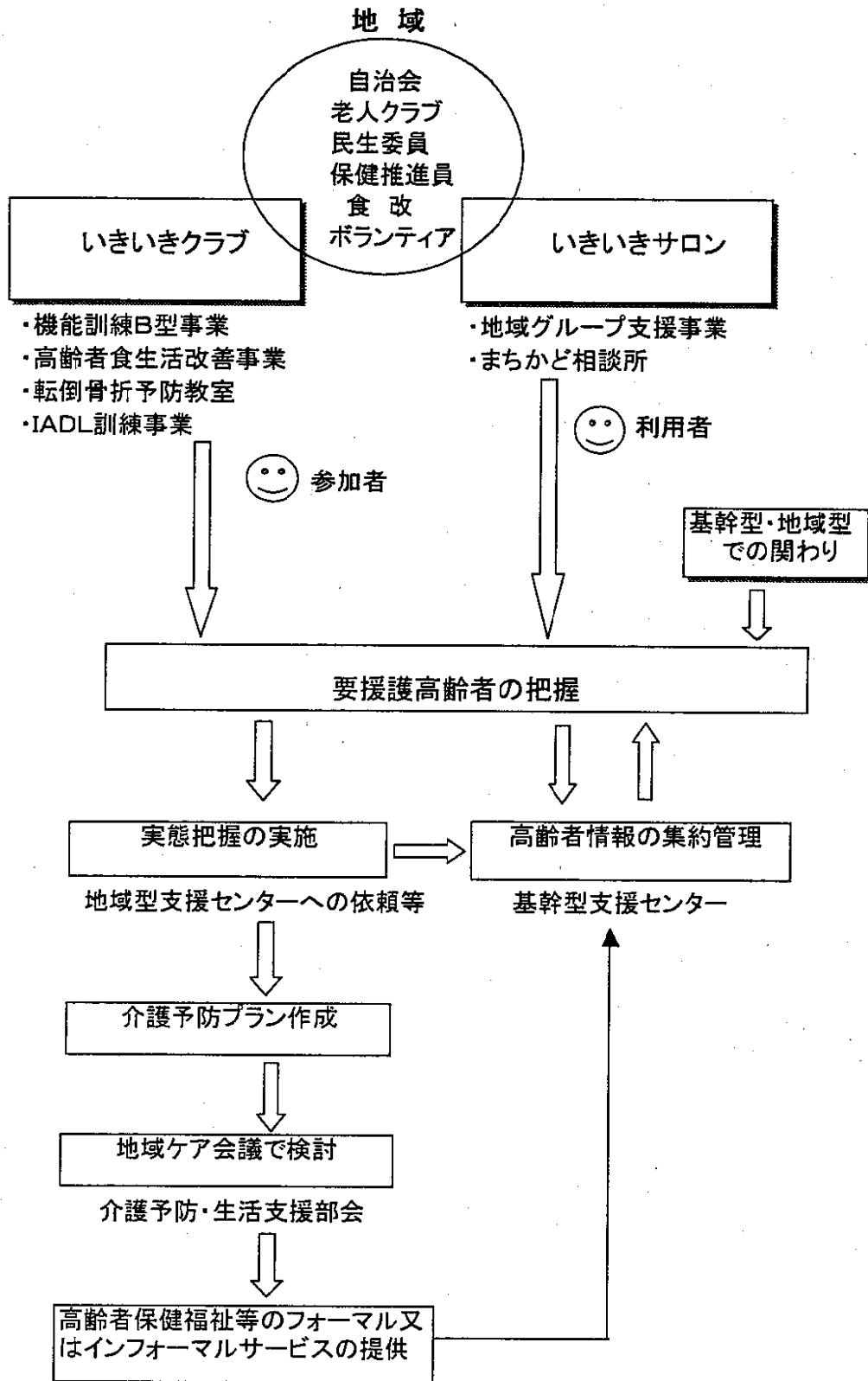
基幹型在宅介護支援センター配置図



在宅介護支援センター概念図



《 老人保健事業と介護予防事業 》



平成13年度いきいきクラブ（機能訓練B型・IADL訓練事業）の実施について

1. 目的

平成12年度より介護保険が施行となり、デイサービス（ケア）が介護サービスの一つとなることに伴い、介護保険の対象とならない自立の方や虚弱・閉じこもりがちな方を対象に、地域の公民館等に出向いて機能訓練B型（地域参加型）・IADL予防事業を実施することにより、寝たきりや痴呆の発生を予防し、支援を必要とする高齢者の早期発見などの予防活動を行っていくことを目的とする。

2. 開催場所

23ヵ所（老人クラブ単位）、地区公民館等

3. 開催頻度

毎月1～2回－開催可能な地区から、順次回数を増加し開催

4. 対象者

(1) デイサービスやデイケア参加者のうち、介護保険施行後対象とならない虚弱の方。

(2) 一人暮らし（日中）及び老人世帯等で、家の中に閉じこもりがちな方。

(3) 元気で自立の方。

※老人クラブを核として開催するが、老人クラブ会員以外の方も対象とする。

5. 開催内容

(1) 機能訓練B型事業（月1回）

①健康相談（血圧測定、必要により尿検査）

②手指作業的なもの（手工芸など）

③学習的なもの（寝たきり・痴呆予防などの健康学習等）

・痴呆・介護事業

・転倒骨折予防教室

・高齢者食生活改善事業（平成13年度より追加開催）

(2) IADL訓練事業・転倒予防事業

①レクリエーション（ゲーム・体操・歌・おどりなど）

・手段的日常生活動作訓練体操

・転倒予防体操

※(2)について、地域型在宅介護支援センターへ事業委託とする。

委託先・れいたく苑滝沢村在宅介護支援センター

滝沢村鵜飼字細谷地26-5

・松実会滝沢村在宅介護支援センター

滝沢村滝沢字巣子732-2

・JA新しいわて滝沢村在宅介護支援センター

滝沢村大釜字外館4-4

(3) その他(生活体力測定等)

6. 従事者

(1) 自治会、老人クラブ、保健推進員、民生委員、食生活改善推進員等

(2) 講師(講話、手工芸等)ー内容により随時

(3) 地域型在宅介護支援センター職員

(4) 基幹型在宅介護支援センター保健婦・看護婦

7. 情宣

(1) 村広報・回覧(年度初めのみ)

(2) 従前参加者への実施日の情報提供

(3) 自治会・老人クラブ・民生委員・保健推進員等に参加勧奨依頼